

郷土にエールを贈る 私を育ててくれた 函館の街

外科医、医学博士

みやざき きょうすけ
宮崎 恭介



1966年函館市生まれ。函館市立日吉小学校、同湯川中学校、函館ラ・サール高校、聖マリアンナ医科大学を卒業。北海道大学第2外科に入局し、同大学院で医学博士課程を修了。新日鉄室蘭総合病院、愛育病院、手稲溪仁会病院などを経て、2003年みやざき外科・ヘルニアクリニックを開院、現在に至る。剣道四段。日本ハムファイターズファンクラブ会員。

「セピア色の思い出いっぱい、故郷函館」

函館の杉並町で生まれた僕は、4歳で日吉町の団地に引っ越しました。日吉小学校、湯川中学校、ラ・サール高校への通学は、いずれも徒歩20分以内で、極めて狭い範囲で青春期を過ごしました。たこ公園、香雪園、団地奥の沢など遊び場もたくさんあり、道路はいつも子供達で溢れていました。今と違いひとクラス40名、8クラスはあった時代です。課外活動は、小学校では野球と剣道場に通い、中学校では吹奏楽と合唱、高校では剣道一本に打ち込みました。特に吹奏楽部では、何種類もの楽器の旋律を一つの音に奏でる醍醐味を味わいました。また、同じ吹奏楽部で好きだった女の子との帰り道など、すべてがセピア色の淡い思い出です。

医科大学の6年間を川崎市で過ごしたあと、再び北海道に戻りました。北大第2外科に入り、外科医の第一歩を踏み出しました。室蘭、栗山、八雲の病院で研修しましたが、何故か函館には縁がありました。16年間を札幌で過ごしています。この間、外科医として多くの手術を経験しましたが、一番興味を持った手術が鼠径ヘルニア（いわゆる脱腸）の手術でした。この手術は、外科医にとつて登竜門的な手術で、主に若手外科医によつて行われることの多い手術です。この手術がきちんとできるようになれば、次に胃や大腸、肝臓などの手術を任せられるようになるのです。しかし、この鼠径ヘルニア手術が意外と大変で、当時は術後の痛みが強く、約1週間の入院が必要でした。

そんなとき、僕はある論文に出会いました。New York近郊にあるヘルニアクリニックでは、この手術を6年間で2400例以上、すべて日帰り手術で行い好成績を上げていたのです。この手術の面白さに取り憑かれていた僕は、果たして本当に日帰り手術でできるのかを確かめようと、1998年に直接見学に行きました。答えは本当でした。朝に手術を受けた患者が、午後から元気に歩いて帰るのです。凄い、何とか日本でこんな医療をしたい。それから5年後の2003年、僕は札幌駅JRタワー内に、鼠径ヘルニア日帰り手術の専門クリニックを開業しました。

開業して3年後、野球好きの僕は北海道に来て初の日本一になった日本ハムファイターズのファンになりました。2007年から6年連続、函館在住の両親と千代台球場バックネット裏で観戦しています。大人になつてから訪れる函館には、旨い寿司屋、フレンチレストラン、料亭が多くあり、湯川温泉街にもいい宿があります。毎回帰るのが楽しみで、函館は僕の好奇心をかき立てる素敵な街なのです。そう、セピア色の思い出に浸れる街、それが故郷函館です。